

高
2026

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で23ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 始まりの合図で、解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

新たな事態が生じている

フェイクニュースについて論じる前に、まずは「フェイクニュース」という言葉の意味を明確にしておきたい。というのも、この言葉はさまざまな意味で用いられており、その意味を明確にしないと、議論がすれ違ってしまいかもしれないからである。

X、朝にご飯を食べるべきかどうかで言い争っている二人がいる。彼らは「食べるべき」と「食べるべきではない」と主張し合っている。一見するとこれは意見が対立しているようにみえるが、「ごはん」という言葉で一方は食事を意味し、他方は炊いたお米を意味していたとすれば、そもそも主題がすれ違っており、二人の意見は対立しているわけではない。

フェイクニュースをめぐる議論に関しても、これと同じことが生じている可能性がある。たとえば、「フェイクニュース」という言葉がさかんに使われるようになったのは比較的最近のことだが、それは本当に新しい現象だといえるのか。というのも、他人から間違った情報が伝えられることや嘘をつかれることは、昔からごく自然にみられる情景だったからである。さらにいえば、政治的プロパガンダなどは古代からさまざまなかたちで行われていたし、ナチスによる情報統制や旧日本軍の大本営発表など、組織的に誤った情報を発信していた事例も^a枚挙にいとまがない。したがって、これらの意味で「フェイクニュース」という言葉を捉えると、それはとりたてて新しいものではないことになる。そして、実際にそのように主張している人も少なくない。しかし近年フェイクニュースが関心を集めているのは、この言葉を使って表現したくなる新たな事態が生じているからである。それが何なのかを明らかにするためには、この言葉が何を意味しているのかをまずはきちん^bと吟味しなければな

らない。

真実か否か

まず「フェイク (fake)」という言葉から考えてみよう。この言葉は多くの場合、「でっち上げ」や「ニセ物」などを意味する。それゆえ、「^①フェイクニュース」という言葉は単なる間違った情報だけを指しているわけではない。たとえば、記憶違いで誤って伝えたことや新聞の誤報などは、事実と違う内容を伝えているという意味で「^①偽なる情報」ではある（こちらは「誤情報 (misinformation)」とも呼ばれる）。しかし、偽なる情報を故意に伝えているわけではない。それに対して「フェイクニュース」という言葉は、多くの場合相手を欺くことを意図して偽なる情報を拡散させている場合に使われる（こちらは「ニセ情報 (disinformation)」とも呼ばれる）。

では「フェイクニュース」という言葉は「伝えられた内容が偽であり、かつ、欺くことを意図している」情報として定義できるだろうか。いや、おそらくこの^②定義ではまだ狭すぎる。なぜだろうか。

まず情報内容の真実性という観点から、伝えられている情報が明確に偽であるとはいえないが、それでもフェイクニュースと言いたくなるケースが存在する。たとえば、あるニュースサイトが「暴徒一〇〇〇人がドイツ最古の教会に放火」という見出しの記事を載せた（この事例は二〇一七年にアメリカの「ブライトバート・ニュース」に掲載された記事を元に再構成している）。そこでは、「アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）」と繰り返し唱える男たちが花火を打ち上げ、由緒ある教会に放火したと書かれている。この記事を読んだ多くの人は、イラム過激派が故意に火災を起こし、教会が燃えてしまったと思うであろう。

Y、実際にはその群衆の一人が放った花火が教会の周囲を覆っていた網に誤って着火してしまったのであり、火はすぐに消し止められるほど小さかった。この場合、すべての情報が虚偽ではないが、それでも全体として読者をcに間違った理解

へと誘導することになり、この点でミスリードである。このように読者に間違った理解を与えるミスリードもフェイクニュースの一部とみなしてよいだろう。

正直か否か

フェイクニュースは情報の内容だけではなく、情報を発信する人の意図に着目して区分することもできる。それが情報発信の正直さという観点である。欺くことを意図している場合は正直さが欠如していることになるが、正直さが欠けていると言いたくなるケースはほかにもある。それは、^③でたらめを言っている場合である。「でたらめ (bullshit)」という言葉を世に広めたのは、H・G・フランクファートの *On Bullshit* (邦題『ウソコな議論』) であった。(Frankfurt 2005)。そこで彼は、嘘をつく人とでたらめなことを言う人を区別している。まず嘘をつく人は、自分が言っていることが真実ではない(偽である)とわかっていて、その内容を相手に真実だと思わせることを意図する。この点で情報の内容の真偽が重要だということがわかっている。それに対して、でたらめを言う人はその内容が真であるか偽であるかをそもそも気にかけていない。

このようならたらめなフェイクニュースの典型例は、二〇一六年のアメリカ合衆国大統領選挙の前にマケドニアのティーンエイジャーたちが流した情報にみることができる。その情報のほとんどは虚偽であったが、のちのインタビュアのなかで彼らは、自分たちの報道が真実であるか、虚偽であるかには何の関心も抱いていなかったことを明らかにした。彼らは結果として多くの偽なる情報を発信していたが、その目的は閲覧者や視聴者を欺くことではなかった。人々にできるだけそのサイトを多くクリックさせ、広告収入によって多くのお金を生み出すことであった。彼らにとっては、情報が正しいかどうか、それによって人々が何を信じることになるかは、どうでもよいことであった。

以上から、フェイクニュースは「情報内容の**真実性**が欠如しており（偽であるか、ミスリードである）、かつ、情報を正直に伝えようとする意図が欠如している（欺くことを意図しているが、でたらめである）」ものとしてひとまず定義することができる。R・ジャスターらはこの二つの観点をそれぞれ分類し、以下のような四つのタイプにフェイクニュースを整理した (Jaster & Lanus 2021)。

① — 二〇一八年のドナルド・トランプ（第四五代アメリカ合衆国大統領）によるツイートには建設中のある壁の写真とともに、「今日の午後の偉大なる報告。われわれの南国境の壁の建設がスタート！（Great briefing this afternoon on the start of our Southern Border WALL!）」と書き込まれていた。しかしその壁は実はまったく関係ない別の壁の写真であり、すでに壁の建設に着手しているという誤解を招くものだった。そしてもしも彼自身がそのツイートの真偽には何の関心もなく、ただ自分の業績を装飾するためにその写真を示したのだとすれば、それはまさにでたらめの事例となっている。

② — マケドニアの若者の書き込みの事例（特定の意図をもたず、プログラムに基づいて自動的にネット上で投稿を行うボット (bot) などによって起こるかもしれない）。

③ — 二〇一六年のアメリカ大統領選で対立する陣営の評価を落とすために、虚偽の情報が意図的に発信され、銃撃事件にまで発展したピザゲート事件。

④ — 「ブライトバード・ニュース」の事例。

定義ではない明確化

フェイクニュースの定義としては、このような真実性の欠如と正直さの欠如以外にもさまざま観点が提案され

てきた。たとえば、フェイクニュースの「ニュース」という言葉に着目して、「マスメディアが発信している本物のニュースを模倣している」ものがフェイクニュースだと考える立場もある。あるいは、その意図に着目して「広く伝播することを意図している」とか、その伝達媒体に着目して「インターネットやソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)において生じている現象である」点もよく挙げられる。これらはそれぞれインターネットという新たな技術やメディアによって可能となった情報発信の特徴をよく捉えており、フェイクニュースがなぜとりわけ現代的な課題であるのかを示している。

では、これらのうち、どの定義が正しいのだろうか。この問題に関しては現在でも論争中であるが、本書ではどれかひとつを「フェイクニュース」の定義とするのではなく、これらの④特徴がゆるやかに重なり合い、交差し合う現象としてフェイクニュースを捉えてみたい。そこでヒントとなるのがL・ウイトゲンシュタインが提示した「家族的類似性」(Wittgenstein 2009)という概念である。

たとえば、私は「ゲーム」という言葉の定義を知らない。それでも、将棋とテニスが似ていて、将棋と*ソリティアが似ていることがわかる。つまり、家族の成員、祖父・祖母、父・母、兄・妹などそれぞれ相互に類似しているように、「ゲーム」と呼ばれるものの特徴が相互に重なり合い、交差し合っていることをみてとることができる。それゆえ、すべてのゲームに共通する特徴を見出して、唯一の定義を与える必要はない。同様に、われわれは日々の生活のなかで「フェイクニュース」と呼ばれるさまざまな事例がもつ特徴の重なり合いをみてとることができ、その類似性の網の目のうちにフェイクニュースと呼ばれる現象が存在している。したがって、必ずしもその意味をひとつの定義に切り詰めて考える必要はない。

しかし唯一の定義を与えないからといって、その言葉をどのように使ってもいいということにはならない。たとえば、「フェイクニュース」という語を頻繁に用いていたのはドナルド・トランプだが、彼はこの言葉をしばし

ば自分に d なマスメディアが発信する情報に対して使っていた。そしてこのような用法は、彼の支持者たちのみならず、他国の指導者のあいだにも広まっていた。ウクライナ侵攻後のロシアも、公式発表のなかでしばしば他国の発信を「フェイクニュース」と断じていた。このような使い方で「それはフェイクニュースだ！」と言われるとき、この言葉はその情報内容が間違っているという事実に関する主張をしているのではない。もしそうであれば、彼らはそれがなぜ間違っているといえるのか、証拠を集めたり列挙したりして、真実を明らかにしようとするであろう。しかし、ほとんどの場合そのようなことは行われない。それは「この部屋は暑いね」という言葉が、部屋の温度についての事実を述べているのではなく（実際に部屋が暑いかどうかを問題にしているのではなく）、「クーラーを入れてくれ」という依頼や命令として使われる場合に似ている。つまり、ここでの「それはフェイクニュースだ！」という発言は「やつらの言うことを信じるな！」という命令や勧告として使われているのである。このように「フェイクニュース」という言葉は、自分と異なる相手の意見を抑圧したりその発言を無効化したりするための道具として用いられる危険性をもっている。

哲学者のD・コーデイは「フェイクニュース」という言葉が濫用されている現状を踏まえて、この言葉を使うこと自体を控えるべきだと主張する。(Coady, D. 2021)。その指摘はもつともではある。しかし、たとえわれわれがこの言葉の使用をやめたとしても、きつと彼ら彼女らは変わらずにこの言葉を使い続けるだろう。そしてこの濫用を防ぐために、「それは言葉の濫用だ！」と言いつつ返すだけでは不十分である。やはりこの言葉の意味がある程度明確化したうえで、「あなたは「フェイクニュース」という言葉をいったいどんな意味で使っているのですか」と相手に問いかけ、^⑤無制限な濫用をその都度ただしていく必要がある。この点で、「フェイクニュースとは何か」という問いは、繰り返し立ち戻ってくる必要のある問いである。

なぜ問題なのか

しかし、そもそもフェイクニュースはなぜ問題なのだろうか。もちろん、嘘をつくことや人を欺くことは e によくないことである。しかしフェイクニュースには、それを発信する行為だけでなく、それが社会のなかで広まることにより生じる問題もあるように思われる。それはいったい何だろうか。

まず、真実ではない情報が広まることで、実際の被害が生じる。一般的に間違った情報をもとに行動すれば、さまざまな実害が発生する。たとえば、感染症についての間違った情報であれば、それは生命の危険をもたらす。誰かについての間違った情報が根拠のない誹謗中傷を呼びおこし、その人の人生を台無しにしてしまうかもしれない。

Z それは、ひとつの被害に留まるとは限らない。たとえば、われわれが物事を考える際に依拠する基本的な情報が間違っていると、そこから導かれる事柄も連鎖的に間違っていくことになり、結果としてさまざまな領域に間違った信念が増幅されていくことになる。つまり、誤謬ごびょうという病は伝染し、周囲に悪影響を及ぼしながら増殖していく。さらにこの誤った考えが、瞬時に、かつ、広範な情報共有を可能にするインターネットという媒体に載せられることによって、社会的全体も瞬く間に誤謬ごびょうに感染し、実害も拡大していく。これはもともとわかりやすいフェイクニュースの問題点である。

二つめの問題は、他者への信頼、とりわけ従来の知的権威への信頼が損なわれる点である。われわれは多くの情報を他人に依存して獲得しているが、フェイクニュースが蔓延まんえんすると、他人の言っていることを信じられなくなる。とりわけ深刻な問題となるのが、マスメディア、あるいは科学者に代表される専門家への批判と結びついたときである。実際フェイクニュースや陰謀論は、これらの知的権威への批判とセットになって発信されることが多い。

たしかに従来の知的権威の失墜を「知の民主化」とみなすこともできるかもしれない。しかし実際に生じている状況は、知の民主化というより、知の*アナーキズムではないだろうか。あるいは、その空白の知的権威の座に、新たに登場したネット情報のインフルエンサーが座り、一般的に信じられている事実^⑥に代わる「もうひとつの事実 (alternative fact)」を提供している。このような状況のなかで、われわれはいったい何を信じてよいのかわからなくなり、^⑥知的に不安定な状態に置かれることになる。

三つめの問題として、民主的な社会における意思決定の正統性が損なわれてしまう点が挙げられる。現在、多くの国や社会では、住民投票や選挙等の直接的・間接的な民主的手続きを通じて意思決定が行われている。しかしこのプロセスは、それぞれの社会の成員が政治的な問題に対する判断能力を具えていることを前提にするだけでなく、一人ひとりにある程度正しい情報が共有されていることをまた前提にする。したがって、もしもこの前提が崩れるとすれば、民主的なプロセスそのものの信頼性が揺らぐことになり、決定された結果の正統性にも疑いの目が向けられることになる。この問題はさまざまなかたちで顕在化してきているが、それが問題として人々のあいだに共有されるきっかけとなったのは、二〇一六年、イギリスで行われたEU（欧州連合）離脱（ブレグジット）についての国民投票であった。その際、EU離脱派のナイジェル・ファラージによる「EUへの拠出金が週三億五〇〇万ポンドに達する」という発言がSNS上で拡散されたが、彼は投票後に、実際の拠出金がそれより大幅に少ない額であったことを認めた。この情報が実際の投票結果にどの程度影響を与えたのかはわからないが、もしも国家や自治体の行く末を決める集団的意思決定の結果がフェイクニュースに左右されるものだったとすれば、それは現在のわれわれだけの問題ではない。ひいては、未来を生きる子どもたちに対する責任という問題にもなってくる。

最後に、フェイクニュースによって人々が真理への関心を失っていく問題を挙げておきたい。もちろん、従来

もさまざまな場面で間違った情報が伝えられることはあったが、これまでは少なくとも、間違った情報を伝えることはよくないことであり、情報の真偽は検証されなければならず、もしも間違っていると判明したら訂正する必要があると思われていた。例外は多々あったにせよ、従来のジャーナリズムは世の中で起こった新たな出来事を伝えるという意味での「ユース」を発信する機関として存在しており、建前であれ何であれ、「真なることを伝えるべし」という規範を共有していたように思われる。

それに対して、ネット時代のフェイクニュースの発信者は、多くの場合このような規範を共有していない。そしてこの規範に関していえば、先ほどみた嘘をつく人とでたらめを言う人とは、後者のほうがより問題が大きい。たとえば、嘘をつく人は自分の主張に反する証拠を持ちだされれば、嘘を取り繕おうとしてその証拠を何らかの仕方でも否定し、反証、つまり反対の証拠を示そうとするだろう。この点で、嘘はまだ真実を検証するゲームの土俵に乗っている。それに対して、でたらめを言う人はそのような証拠に対して反証しようとさえせず、端的に無視する。つまり、真実を語る人と嘘をつく人は真実を検証するゲームのなかで反対の立場に立っているのに対して、でたらめを言う人はそもそもそのゲームの土俵に乗っていない。

このような真実に対する態度の違いは、でたらめを言う人を負けることのない「無敵」の状態にしてしまう。たとえば、将棋というゲームで「負ける」ことがありうるのは、お互いが将棋のルールに則ってコマを動かしているからであり、そのような共通のルールに従わずコマを自分の好きなように動かしている人は、負けることがありえない（もちろん、逆に「勝つ」こともありえない）。同様に、真実の検証ゲームの土俵に乗らない人はどんな証拠を持ちだされたとしても、そもそも証拠によって「負ける」ことはない。そこでは、もはや真実は何の規範性ももたなくなってしまう。

そして、もしもこのような態度が社会全体に蔓延まんえんしていくならば、現在は物事の真偽に関心をもっている人々

も、その関心を知らず知らずのうちに失っていき、真偽へのこだわりをもつ人のほうが少数派になっていく可能性がある。私がつとも恐ろしいと思うのは、もしかしたら^⑦このような変化がすでに至るところで進行中なのかもしれないということである。

(山田圭一『フェイクニュースを哲学する―何を信じるべきか』)

(注釈)

*ソリティア パズルのようにカードを動かして整理するゲーム

*アナーキズム すべての権力と強制を否定し、個人の完全な自由、自主的な社会を実現しようとする空

想的な理想主義・思想

.....

問一 空欄XYZにあてはまる言葉を次からそれぞれ選び記号で答えなさい。

ア しかし イ なぜなら ウ たとえば

エ あるいは オ そして カ つまり

問二 傍線部 a 「枚拳にいとまがない」 b 「吟味しなければならぬ」とあるが、本文中の意味として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

わしいものを次から選び記号で答えなさい。

a 「枚拳にいとまがない」

ア 思いがけないものが入ってくる

イ 予想や計画がねらった通りに運ぶ

ウ ひと目であきらかにわかる

エ 数えることができないほど数が多い

b 「吟味する」

ア 受け入れるかどうか決める

イ 詳しく念入りに調べる

ウ 美しいものを見て心を満たす

エ 実際に見たり聞いたり体験すること

問三 傍線部①「フェイクニュース」と②「偽なる情報」との違いとは何か。解答欄に当てはまるよう本文中から十字以上十五字以内で抜き出して答えなさい。

ら十字以上十五字以内で抜き出して答えなさい。

問四 傍線部②「この定義ではまだ狭すぎる」とあるが、それはなぜか。その理由として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

ア 全てにおいて意識的な嘘が含まれていなくとも一部の嘘があつた時点で、フェイクニュースとして定義されると筆者は考えたから。

イ 思いつきや適当な判断を論理的であるかのように見せかける姿勢が、フェイクニュースの定義に含まれると筆者は考えたから。

ウ 情報を正直に伝えようとせずそもそも真偽さえ気にしない姿勢が、フェイクニュースの定義に含まれると筆者は考えたから。

エ ニュースを受け取る側の混乱を招こうと故意に操作されたものが、フェイクニュースとして定義されると筆者は考えたから。

問五 空欄【c】【d】【e】にあてはまる最もふさわしい語を次から選び記号で答えなさい。

ア 倫理的 イ 意図的 ウ 革新的

エ 直接的 オ 具体的 カ 批判的

問六 傍線部③「でたらめ」とあるが、本文が説明する「でたらめ」である発言の例を選び記号で答えなさい。

- ア 生徒…今朝、乗っていた電車で急病人が出て緊急停車したので遅刻してしまいました。
- イ 先生…朝の会で課題を集めました。あなたはどうしますか。
- ウ 生徒…課題は昨日のうちに全部終わらせているので、放課後に提出します。
- エ 先生…それでは、放課後までに、教卓にある提出箱に入れておいてくださいね。
- オ 生徒…先生の教卓の中の秘密の箱に入れておきます。

問七 本文の4ページにある 2 4 は、次の表の空欄A～Dのどちらに対応するか、答えなさい。

真実性の欠如

	偽なる発言	ミスリード
欺くことを意図	A	B
でたらめ(真偽への無関心)	C	D

正直さの欠如

問八 傍線部④「特徴がゆるやかに重なり合い、交差し合う現象」とあるが、この表現を例えている箇所を探し、八字以内で抜き出して答えなさい。

問九 傍線部⑤「無制限な濫用をその都度ただしていく必要がある」とあるが、その理由を本文中から探し、最初と最後の五字を抜き出して解答欄に続くよう答えなさい。尚、句読点は含まない。

問十 傍線部⑥「知的に不安定な状態」とはどのような状態か。その説明として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

- ア 国家やあらゆる権力に対して不信を抱き、無秩序な混乱に陥ることに真実を感じる状態
- イ 専門家やマスメディア、伝統的な知識への信頼が揺らぎ、物事の考察が揺れ動く状態
- ウ 柔軟に議論し自由に考えを発信できることで、物事の根拠そのものを常に疑う状態
- エ 利害関係のない個人や団体に対して、ネット上で簡単に攻撃することが可能な状態

問十一 傍線部⑦「このような変化」とあるが、どのような変化か、その説明として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

- ア 意図して嘘をつく者が、でたらめを気にもかけず語る者と対立する変化
- イ フェイクニュースが拡散し社会全体の認識力を弱めていく変化
- ウ 調査能力や検証能力を高めることなく情報を発信することが増える変化
- エ 物事の真偽を求める人が、世の中全体から減り続けている変化

問十二 次の各文は、この文章を読んだ生徒AからEの感想です。筆者の意見を踏まえていない感想はどの生徒のものですか。解答欄に合うよう、記号で答えなさい。

生徒A 何を信じるべきかという問いは大昔から変わらずあるけれども、SNSの発達した現代社会ではインターネットから離れて物事を考察し正確な考えを持つていこうと書かれていたね。

生徒B フェイクニュースという言葉の定義は人によって変わると考えると、フェイクニュースとは何かという問いかけを忘れてはいけなことがわかったよ。

生徒C フェイクニュースが誹謗中傷を招き人生を台無しにすることもあるし、さらに他の分野にまで拡散し被害が広がっていく今の時代は、専門家やメディアに対する不信にも繋がってしまうね。

生徒D 私は「同じ土俵に乗っていない」という説明がとても気になったよ。自分が正しいと思って真剣に伝え解決したいと思っても、解決方法もその答えも違うことになるならば、どうしていけばいいのだろう。

生徒E 「嘘」もよくないことだけれど、それ以上に真実でも嘘でも気にしない人のほうが問題だと筆者は言っているよね。真実に対し、無関心にならないことを意識していくべきだと思ったよ。

【二】 次の【文章Ⅰ】は江戸時代に成立し、後の落語の源流にもなった『醒睡笑』の一節（醒睡笑卷之二）で、【文章Ⅱ】は平安時代に成立したとされる『今昔物語集』（卷第三十一）である。これらを読み、後の問いに答えなさい。表記は出題の都合上一部改めている。

【文章Ⅰ】

石州銀山にての事ぞとよ。常により合ぬる者、一人（※2）入道し、（※3）法名を芝恩とつく。友達に鈍なる男ありて、つねに芝恩と云名をわすれ、お禅門（※4）く（※1）とよぶ。禅門腹立し、（※5）しをんといふ草あり、見られた事はなきか。いやまだ見ぬと。（※6）さらば見せんとて、つれだちある人の前（※7）裁へ行き、しをんと、しやがと、花さきてありしを、これはしをん、これはしやがといふと。（※8）此しをんの花の名をよくおぼゆれば、わが名と同じことぞ。わすれ給ふなどいひふくめて、かへりぬ。件の男、領掌しけるが、又二三日ありて後、よりあひし時、しをんばうちわすれ、さてもしやがお久しいと申しける。

〈語注〉

- 1 石州銀山：現在の島根県にあった石見銀山。
- 2 入道：出家して仏道に入る。
- 3 法名：僧に与えられる名。
- 4 く…：同じ文字を繰り返すための文字。この場合、「お禅門」を繰り返す。
- 5 しをん…：紫苑。キク科の大型多年草。
- 6 前栽…：庭先に植えた草木。
- 7 しやが…：射干。胡蝶花。アヤメ科の常緑多年草。
- 8 領掌…：納得。理解。

問一 傍線部①「ぜんもん禪ふくりゅう門腹立し」の理由としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 友達がいつも名前を忘れているから。 イ 友達がしつこく名前を呼ぶから。

ウ 友達が入道せずに一人だったから。 エ 友達が花を見たことがないから。

問二 傍線部②「さらば見せん」の現代語訳としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 別れは見せたくない イ そのような理由で見せない

ウ 去ってから見よう エ それならば見せよう

問三 傍線部③「をしへ」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

問四 傍線部④「此しをんの」から始まる発言はどこまで続くか、終わりの三文字（句読点も含む）を抜き出し

て書きなさい。

問五 波線部A～Cの主語の組み合わせとしてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア A 芝恩 B 鈍なる男 C 芝恩 イ A 芝恩 B 芝恩 C 鈍なる男

ウ A 鈍なる男 B 芝恩 C 鈍なる男 エ A 鈍なる男 B 鈍なる男 C 芝恩

【文章Ⅱ】

今は昔、^(※9) ◆◆の国^(※10) ◆◆の郡^(※11)に住む人有けり。男子二人有けるが、其の父失にければ、其の二人の子共恋ひ悲ふ事、^(※12) 年を経れども忘るる事無かりけり。

昔は失せぬる人をば^(※13) 墓に納めければ、此をも納めて、子共祖の恋しき時には、^(※14) 打具して彼の墓に行きて、涙を流して、我が身に有る憂へをも歎をも、生きたる祖などに向かひて云はむ様に云ひつつぞ返りける。

しかる間、漸く年月積りて、此の子共、A に仕へ、私を顧みるに堪難き事共有ければ、兄が思ひける様、「我只にては思ひ慰むべき様無し。^(※15) 萱草と云ふ草こそ、其れを見る人思ひをは忘るなれ。然れば、彼の萱草を墓の辺に植ゑて見む」と思て、植ゑてけり。

其の後、弟常に行きて、「例の御墓へや参り給ふ」と兄に問ひければ、兄、障がちにのみなりて、具せずのみなりにけり。しかれば弟、^(※16) 兄をいと心うしと思ひて、「我等二人して祖を恋つるに懸りてこそ、日を暗し夜をあかしつれ。兄は既に思ひ忘れぬれども、我は更に祖を恋る心忘れじ」と思ひて、^(※17) 「紫苑と云ふ草こそ、其れを見る人、心に思ゆる事は忘れざなれ」とて、紫苑を墓の辺に植ゑて常に行きつつ見ければ、いよいよ忘るる事無かりけり。

〈語注〉

- 9 ◆◆…どのような文字が入るか特定できないため、◆◆で示している。 10 ◆◆…9に同じ。
- 11 墓…火葬にして埋葬する形式に対して、土葬にした墓。 12 打具…連れ立って。一緒に。
- 13 萱草…多年草の一種。 14 紫苑…【文章Ⅰ】の5に同じ。

問六 傍線部⑥「年を経れども忘るる事無かりけり」の意味としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 年月が経過したとしても忘れないだろう
- イ 時が流れたので忘れたことをなかったことにした
- ウ 何年経つても忘れることがなかった
- エ 年をとったのに忘れようとはしなかった

問七 空欄 A に当てはまる、二重傍線部「私」の対義語である語句を漢字一字で答えなさい。なお、空欄 A に入る語句の現代語訳は「朝廷」である。

問八 傍線部⑦「兄をいと心うしと思ひて」の理由としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 都合が悪いことが重なり一緒に行かなくなったから。
- イ 一緒に行くと支障があると言ようになったから。
- ウ 墓参りにこっそり隠れて行くようになったから。
- エ 以前のように誘ってくれることがなくなったから。

問九 【文章Ⅰ】 【文章Ⅱ】 の内容を踏まえて後の問いに答えなさい。

私たちの社会では花を贈る習慣がありますが、その際に「花言葉」を意識して贈る人もいるでしょう。「花言葉」とは、花の色や形、性質などから、その花に意味を持たせた言葉です。

【文章Ⅱ】の『今昔物語集』は、このような、花に込められた意味が話の中心となっています。そこに出てくる「萱草」には、X という意味があることが読み取れます。

【文章Ⅱ】の『今昔物語集』の内容を踏まえて【文章Ⅰ】の『醒睡笑』を読むと、芝恩と同じ名である「紫苑」には、Y ため、その通りにならなかったことに、面白さを感じますね。

(1) 空欄Xに当てはまる語句としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 思いを忘れない イ 思いを忘れる ウ 思いを伝えたい エ 思いを秘める

(2) 空欄Yに当てはまる語句としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 思いを伝えたいという意味があるのに、友達が鈍感な男であった
イ 思いを忘れるという意味があるのに、芝恩が純粹な男であった
ウ 思いを忘れないという意味があるのに、友達が鈍い男であった
エ 思いを秘めるという意味があるのに、芝恩が短気な男であった

三 次の文章は、三浦しをん『舟を編む』の一節である。これを読み、後の問いに答えなさい。

辞書は必ずしも万能ではないと知り、荒木は落胆するどころか、^①ますます愛着を深めた。かゆいところに手が届ききらぬ箇所があるのも、がんばっている感じがして、とてもいい。決して^②□□無□□ではないからこそ、むしろ、辞書を作ったひとたちの努力と熱気が伝わってくる^③ような気がした。

一見ただけでは^④無□□な言葉の羅列だが、この膨大な数の見出し語や語釈や作例はすべて、だれかが考えるに考え抜いて書いたものなのだ。^⑤なんとという根気。なんとという言葉への執念。

小遣いが貯まるたび、荒木は古本屋へ走った。辞書は改版されると、それ以前の版が本屋で安価で売買される^⑥ことが多い。異なる出版社のさまざまな辞書を、少しずつ集めて読み比べた。使いこまれて表紙がちぎれたもの。まえの持ち主の書きこみや赤線の残るもの。古い辞書には、作り手と使い手の言葉との格闘の跡が刻印されている。

問一 — 部②・④の□に当てはまる語句をそれぞれ漢字で書きなさい。なお、②は「欠点や不足が全くなく、完璧であるさま」、④は「生命感に乏しく、冷たい印象や機械的な印象を持つさま」の意味である。

問二——部③「ような」と同じ意味・用法の「ような」を含む文を次から選び、記号で答えなさい。

ア 君には以前にどこかであったような気がする。

イ あなたのような親切な人はあまりいない。

ウ 両親は鬼のような形相で怒っていた。

エ 緊張のあまり蚊の鳴くような声で答えた。

問三——部⑤「なんと」という根気。なんとという言葉への執念。」で用いられている表現技法としてもっともふさわ

しいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 体言止め イ 直喩 ウ 倒置 エ 擬人法

問四——部①「ますます」、⑥「多い」の品詞名としてもっともふさわしいものをそれぞれ次から選び、記号で

答えなさい。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 名詞 オ 副詞

カ 連体詞 キ 接続詞 ク 感動詞 ケ 助動詞 コ 助詞

問五 この文章は、三浦しをん『舟を編む』の一部だが、「舟」の数え方としてもっともふさわしいものを次から

選び、記号で答えなさい。

ア 棹 イ 斤 ウ 輪 エ 隻

四 傍線部のカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

- ① 良い試合をしていたが、セキハイした。
- ② 小遣いをケンヤクして、欲しいものを買う。
- ③ 子どもたちがいたずらをクワダてる。
- ④ 友達とグウゼン同じ服を着ていた。
- ⑤ 友人を招いてパーティーをモヨオす。

五 傍線部の漢字の読みを、それぞれ答えなさい。

- ① 花屋に品物を卸す。
- ② 大臣が諮問する。
- ③ 国に行く先を憂慮する。
- ④ 陪審員に選ばれた。
- ⑤ 花が枯れるのは自然の摂理だ。

